



政令指定都市になつたけど…

浜松と新潟の二つの都市がこの4月に政令指定都市になります。数年前、本市も国の進める合併が時代の要請と理解し、近隣市町を併合、漸く70万の人口を構築し、晴れて国の指定を受けました。

思えば、私が市長の時代、本会議の一般質問に当たって政令市の問題を尋ねられた。その時、私の答弁は「21世紀の初頭には静岡・清水・焼津がひとつになつて政令指定都市となるだろう。」と答えています。

当時の私の脳裡に刻まれた都市構想は、静岡・焼の3市の合併を前提にしたものでした。その発想の原点は三市が鼎立しあつてこそ夫々の町の個性が保たれ、納得いく行政運営が容易であると理解した。第一、新市名で採めることはないし、合併後の町の中心を何処に置くかの論議も無用である。更に人口も80万を越え、堂々たる政令市への仲間入りが可能と考えたからであります。

それから15年後、紆余曲折していた合併問題は、突如清水JCから提案され、これが予想外に一気呵成、合併協議会を通過し、4年前、静岡両市は一体化したのでした。

さて、政令市となれば道路行政や福祉関係、或いは教員の任命権など1400余に及ぶ業務が県より市に委ねられます。勿論、権限が移譲されて未だ日の浅い今日、その成果は市民の期待に比べられる段階にはありません。とは言え正直申し上げて、私には私拭きできない疑念があります。

それは旧静岡市民に共通する「憤り」でもありませんが、両市の都市基盤の整備の違いから地

域別の予算配分は明らかに清水区に偏重しております。勿論、道路行政や公共下水、或いは校舎の耐震化など旧静岡市との市民サービスは歴然とした格差があります。更に今後、蒲原・由比が対象となつていく時、旧静岡市への投資額に不満は一層募るでしょう。

以前から私は政令市に格上げされれば、国からの地方交付税が一気に増額するものと考えておりましたが、聞けば本市の財政担当者は本年度の推計として凡そ133億円とはじいているとのことでした。

10数年前、政令市を想定して私達は勝手に試算したことがあります。その時には350億400億円の交付税が期待できると算盤をはじきました。

●私のホームページも開いてください。

例えは…

1月16日「ジャカランタ」は今…
この冬の暖かさは尋常ではない、お陰で冬物の衣類は売れず、灯油は残りまことにもって日本経済に悪影響を与えています。ところが昨日と一昨日、突然の大寒波に私もまた縮みあがったところです。

さて寒さにことの外弱いといわれるあのジャカランタの幼木はその後どうしているか、先月12日の掲載記事の継続として報告いたします。実は、多くの葉っぱを持つ小枝は横殴りの雨風に叩かれ鉢の元には細い枝や葉が濡れ落ちていました。触れれば更に落ちそうな気配に私の手も触れる事は出来ませんでした。この冬を越せば大きくなる、そして美しい街路樹も誕生するだろう、私の脳裡には「ロサンゼルス」の街路樹が今尚鮮明に刻まれております。

処が国の財源にかげりが見えると国は突如「三位一体」という改革案を打ち出してきてきたのであります。

地方交付税の減額をはじめ、各種の補助事業の採択など国の想定外の厳しさに直面した、財政部局の思惑は計り知れない処であります。近々、本市と同様浜松も「こんな筈では」の嘆き節が聞こえてくるだろうと想像いたします。

数年前、私は衰退の道を突き進むこの街に、起死回生のラストチャンスと思われる壮大な企画をえがきました。

問題は何事にも挑戦できない市役所であり、石橋を叩くだけで実施に移せない「お公家様」根性です。

本日は敢えて具体的内容については差し控えますが、近々その全貌についてこのSCOPEに掲載し皆様のご意見を賜るつもりです、ご期待ください。

2月11日今日は建国記念の日、

そこで雑学のひとコマを…

ただ今、市民会館で建国記念の日の式典を終えて事務所に戻りました。この式典は以前より極めて限られた市民の参画に終始し、「何とかならないだろうか」と度ごとに思いながらの参加でした。

さて、多くのお年寄りはこの日を「紀元節」として記憶しておりますが、昭和41年に晴れて2月11日を建国記念の日と定められました。その紀元節は「神武天皇の即位の日をもって決めたのが明治5年のことでした。

また読んだ本の受売りですが、日本で初めて「万歳三唱」という行為をした日が大日本帝国憲法の発布した日、即ち118年前の今日になります。以上、雑学の切れ端でした。

こんな具合に折々の気持ちを素直に書いております。

